

## 2025 IR Report

---

# 2025年度卒業生の成長実感と満足度

～ 卒業生の声 から学科の 強み・課題 を考える ～

---

山陽学園大学・山陽学園短期大学 IR推進室

---

2026/2/25 合同会議

# 1. レポートの目的

---

- 毎年度、全ての在生を対象として実施している学修行動及びキャンパスライフ調査の回答から卒業生の回答を抽出して対外的に公表している。
- この調査は2018年度から実施しているため、卒業生というコホート（同一の集団）の回答については、卒業時の静的な情報だけでなく、1年次からの動きを動的に把握することが可能となっている。
- このレポートでは、2025年度卒業生の成長実感（16項目）と帰属意識、愛着度を含む満足度（5項目）の2つの分野の回答について、1年次からの動きも含めて学科ごとのデータを集計・分析することで、各学科の強みと課題を考える材料を提供するものである。

# 2. 留意事項

---

- 学修行動及びキャンパスライフ調査の概要は次のとおりである。
  - 調査対象：全ての在生
  - 調査方法：Web回答（Google Form利用）とアンケート用紙を併用して11月～1月に実施
  - 回答率：別表1のとおり
- 集計・分析は、大学と短大それぞれの学科の卒業時の回答を比較した上で、各学科で1年次からの動きを示している。
- 短期大学については、FD・SD研修のアンケート等で「2年コースと3年コースでは学生の意識等がかなり異なっていると感じている」との意見があったことを踏まえ、2022年度～2024年度卒業生分と同様に、コースごとで集計・分析を行っている。
- 集計結果には、別表1に記載のとおり標本誤差があり得ることに注意する必要がある。

# 別表1 回収率・標本誤差一覧表

学 科	区分A	2022	2023	2024	2025	区分B	2022	2023	2024	2025
言語文化	学生数	41	38	38	38	回収率	97.6	100.0	100.0	100.0
	回答数	40	38	38	38	標本誤差	±2.5	±0.0	±0.0	±0.0
ビジネス心理	学生数	21	20	20	18	回収率	85.7	100.0	100.0	100.0
	回答数	18	20	20	18	標本誤差	±8.9	±0.0	±0.0	±0.0
地域マネジメント	学生数	40	40	39	38	回収率	42.5	65.0	84.6	92.1
	回答数	17	26	33	35	標本誤差	±18.3	±11.5	±6.7	±4.7
看 護	学生数	63	61	56	58	回収率	93.7	95.1	96.4	100.0
	回答数	59	58	54	58	標本誤差	±3.2	±2.9	±2.5	±0.0
健康栄養（2）	学生数	—	—	11	11	回収率	—	—	100.0	90.9
	回答数	—	—	11	10	標本誤差	—	—	±0.0	±9.8
健康栄養（3）	学生数	—	49	45	43	回収率	—	93.9	95.6	100.0
	回答数	—	46	43	43	標本誤差	—	±3.6	±3.2	±0.0
こども育成（2）	学生数	—	—	7	6	回収率	—	—	85.7	100.0
	回答数	—	—	6	6	標本誤差	—	—	±16.3	±0.0
こども育成（3）	学生数	—	53	52	52	回収率	—	98.1	98.1	100.0
	回答数	—	52	51	52	標本誤差	—	±1.9	±1.9	±0.0

※1 表頭の4桁の数字は年度。学生数、回答数の単位は人、回収率、標本誤差の単位は%。

※2 短期大学の学科の後の（2）は2年コース、（3）は3年コースを表している。

※3 標本誤差は、計算式で求めた95%の確率での最大誤差の数値。うち赤字の数字は誤差が10%を超えているもの。

## 別表2 集計項目一覧表

成長実感の項目
1. 授業の重要なポイントをノートにまとめる力
2. 図書館等で文献を調べる力
3. 文献や資料を読んで要点を理解する力
4. 自分の意見と事実を分けて書く力
5. ものごとを客観的・多面的にとらえる力
6. ものごとに対して粘り強く取り組む力
7. ものごとの問題点を発見する力
8. 発見した課題を解決する力
9. 自分の意見を筋道を立てて主張する力
10. 英語の能力
11. 多文化、異文化の人々に関する知識
12. 地域社会が直面する問題に対する理解
13. 国家間、国際的な問題に対する理解
14. リーダーシップ
15. 人間関係を構築する力
16. 大学の建学の精神や教育理念、歴史や伝統

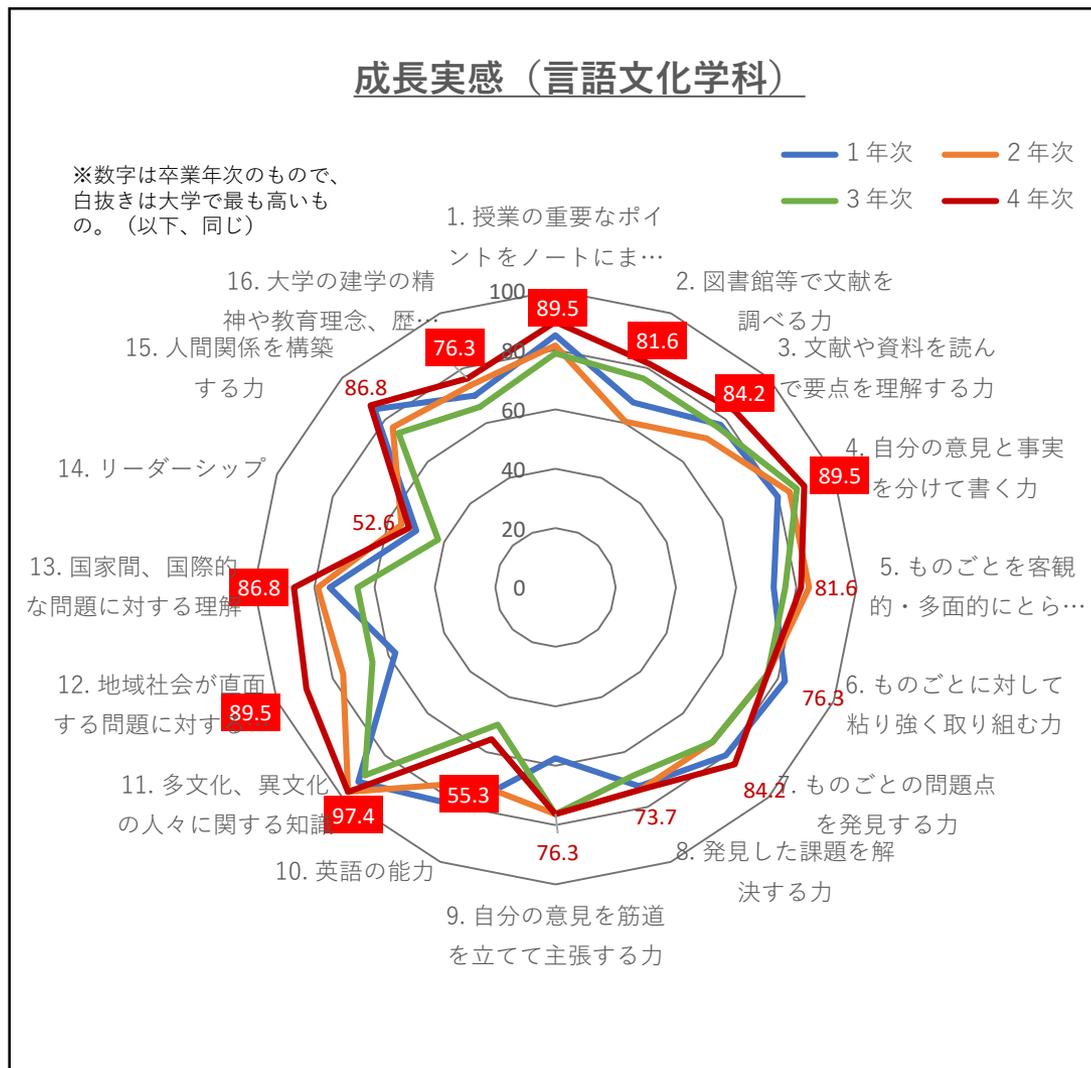
満足度の項目
1. 教員との交流の実感
2. 本学への帰属意識
3. 大学生活への満足度
4. 教育全般への満足度
5. 本学への愛着度



### 3. 成長実感 (1-1) 大学・言語文化学科

- ▶ **国際・多文化理解の突出:**「多文化、異文化の人々に関する知識」(97.4)や「国家間、国際的な問題に対する理解」(86.8)が大学内で最も高く、初年次から高い水準を維持・向上しています。
- ▶ **地域課題への関心の高まり:**「地域社会が直面する問題に対する理解」が1年次の(57.5)から4年次には(89.5)へと大幅に上昇しており、学びの広がりが見られます。

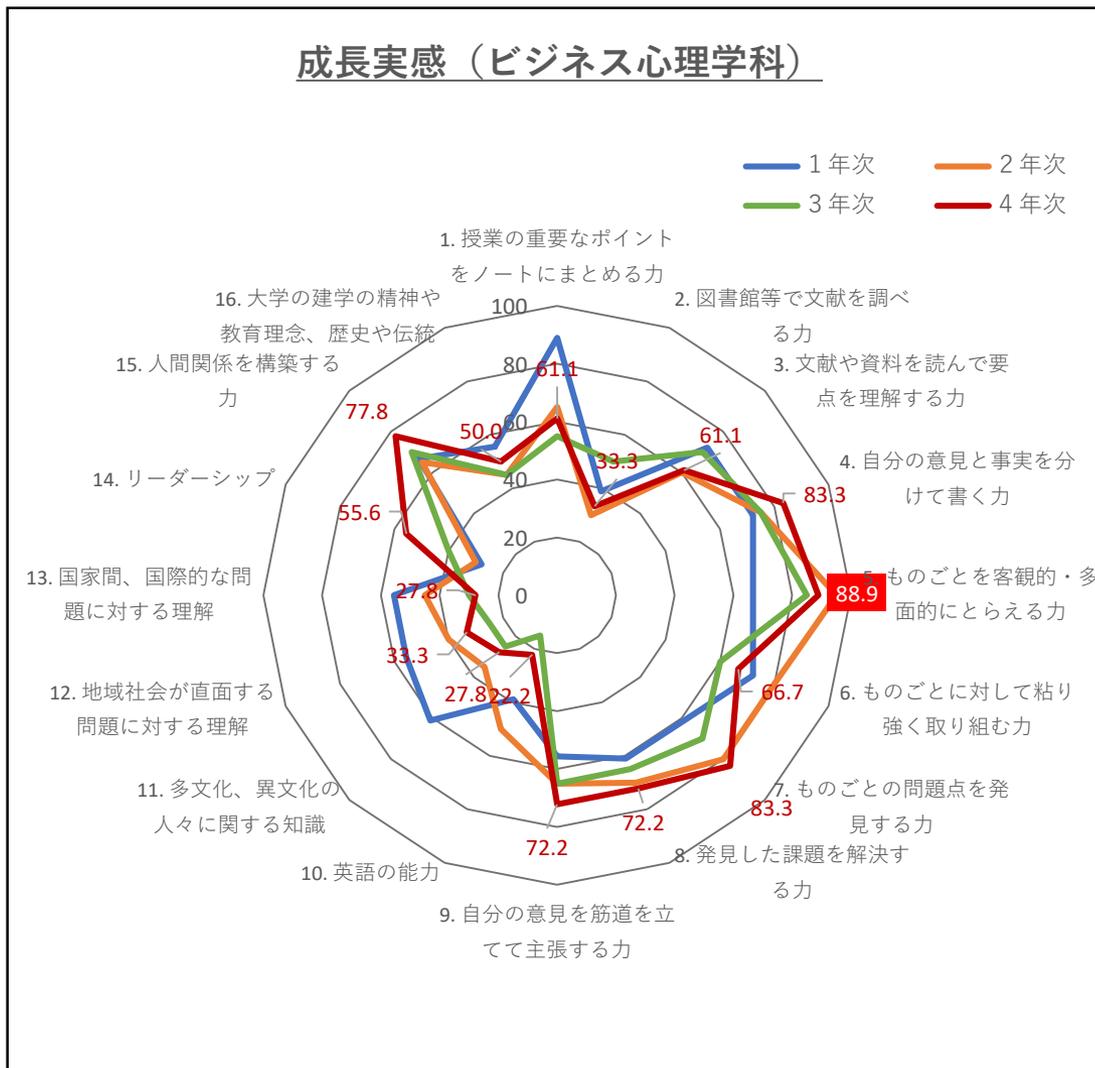
項目	2022	2023	2024	2025
	1年次	2年次	3年次	4年次
1	85.0	81.6	78.9	89.5
2	67.5	60.5	76.3	81.6
3	77.5	71.1	76.3	84.2
4	80.0	84.2	86.8	89.5
5	72.5	84.2	76.3	81.6
6	82.5	76.3	76.3	76.3
7	80.0	73.7	73.7	84.2
8	72.5	73.7	68.4	73.7
9	57.5	76.3	76.3	76.3
10	80.0	71.1	50.0	55.3
11	92.5	97.4	89.5	97.4
12	57.5	76.3	65.8	89.5
13	75.0	78.9	65.8	86.8
14	50.0	55.3	42.1	52.6
15	85.0	76.3	73.7	86.8
16	70.0	73.7	65.8	76.3



### 3. 成長実感 (1-2) 大学・ビジネス心理学科

- **多面的視野と論理性の成長:** 「ものごとを客観的・多面的にとらえる力」(88.9)が大きく伸び、大学内でも上位です。また「自分の意見と事実を分けて書く力」(83.3)も着実に向上しています。
- **リーダーシップの伸長:** 「リーダーシップ」(55.6)は1年次の(27.8)から倍増しており、対人スキル面での成長が顕著です。

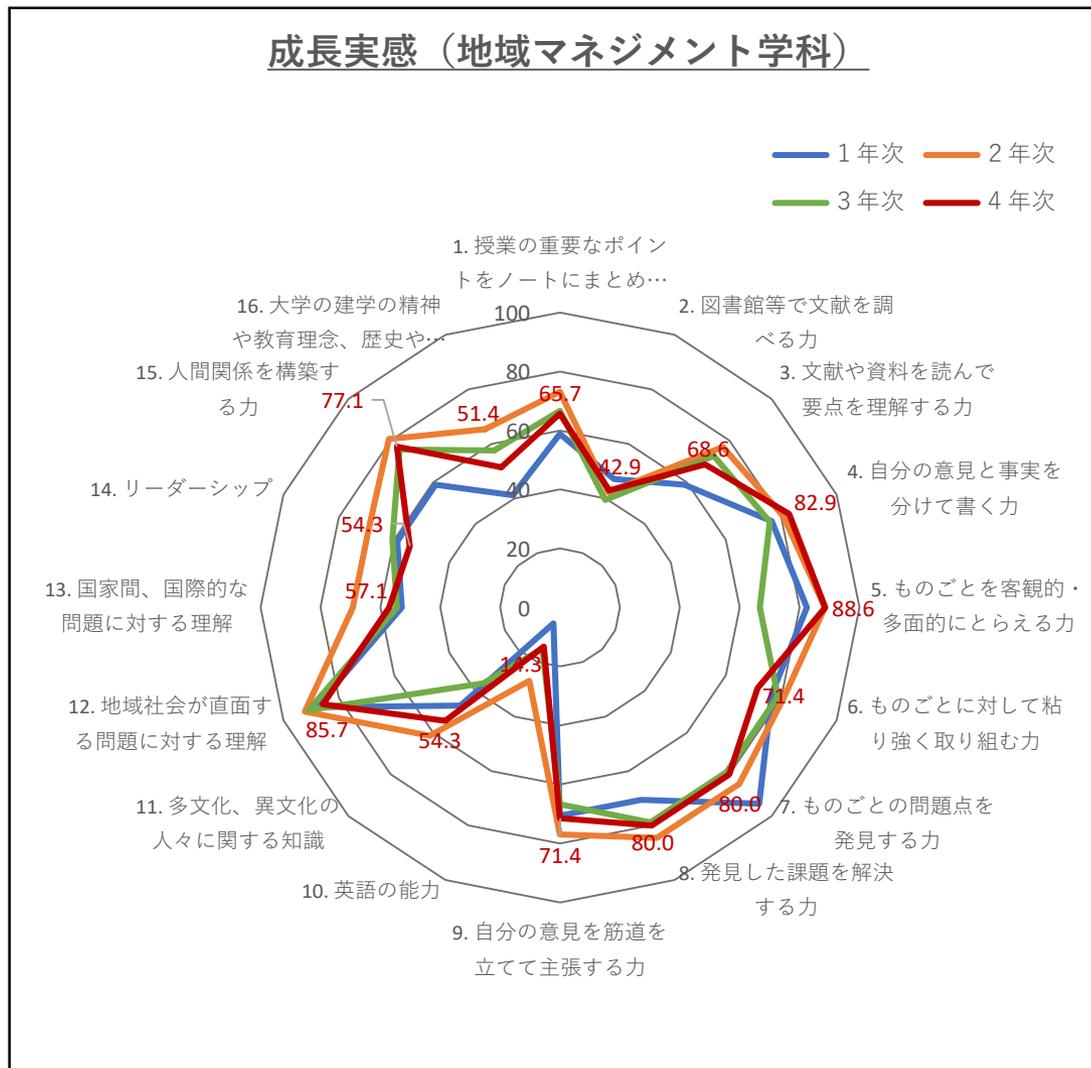
項目	2022	2023	2024	2025
	1年次	2年次	3年次	4年次
1	88.9	65.0	55.0	61.1
2	38.9	30.0	50.0	33.3
3	72.2	60.0	70.0	61.1
4	72.2	75.0	75.0	83.3
5	66.7	95.0	85.0	88.9
6	72.2	80.0	60.0	66.7
7	61.1	80.0	70.0	83.3
8	61.1	70.0	65.0	72.2
9	55.6	65.0	65.0	72.2
10	38.9	50.0	15.0	22.2
11	61.1	35.0	25.0	27.8
12	55.6	40.0	25.0	33.3
13	55.6	45.0	30.0	27.8
14	27.8	30.0	40.0	55.6
15	66.7	65.0	70.0	77.8
16	55.6	45.0	45.0	50.0



### 3. 成長実感 (1-3) 大学・地域マネジメント学科

- ▶ **地域理解の安定した高さ：** 学科の特性通り「地域社会が直面する問題に対する理解」(85.7)が全期間を通じて高く、4年次でも高い数値を維持しています。
- ▶ **客観的視点の強み：** 「ものごとを客観的・多面的にとらえる力」(88.6)が4年次で高く、ビジネス心理学科と並び大学内でトップクラスです。

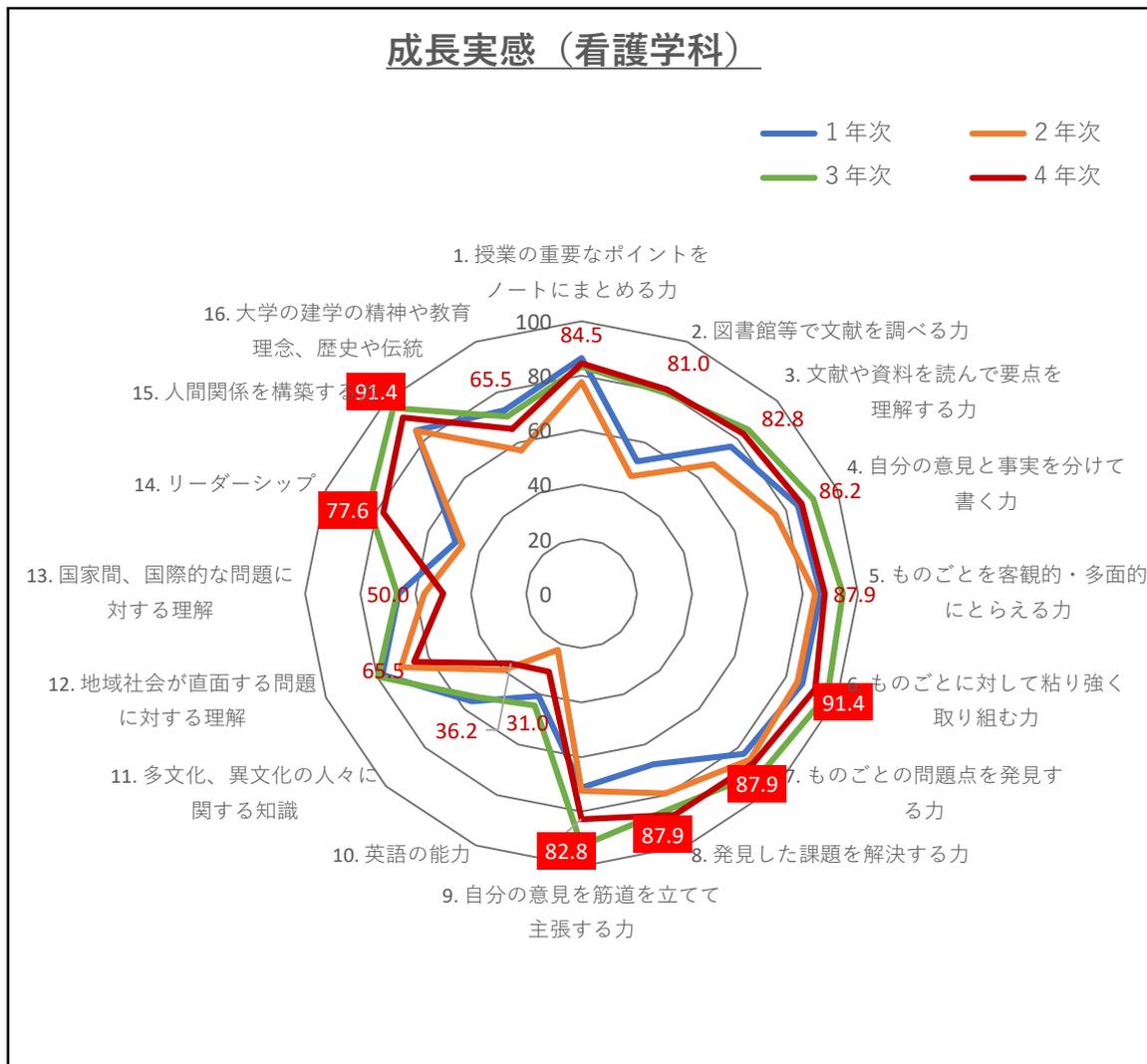
項目	2022	2023	2024	2025
	1年次	2年次	3年次	4年次
1	58.8	73.1	66.7	65.7
2	47.1	42.3	39.4	42.9
3	58.8	76.9	72.7	68.6
4	76.5	80.8	75.8	82.9
5	82.4	88.5	66.7	88.6
6	76.5	80.8	78.8	71.4
7	94.1	84.6	78.8	80.0
8	70.6	84.6	78.8	80.0
9	70.6	76.9	66.7	71.4
10	5.9	26.9	15.2	14.3
11	47.1	61.5	36.4	54.3
12	88.2	92.3	90.9	85.7
13	52.9	69.2	54.5	57.1
14	58.8	69.2	60.6	54.3
15	58.8	80.8	75.8	77.1
16	41.2	65.4	57.6	51.4



### 3. 成長実感 (1-4) 大学・看護学科

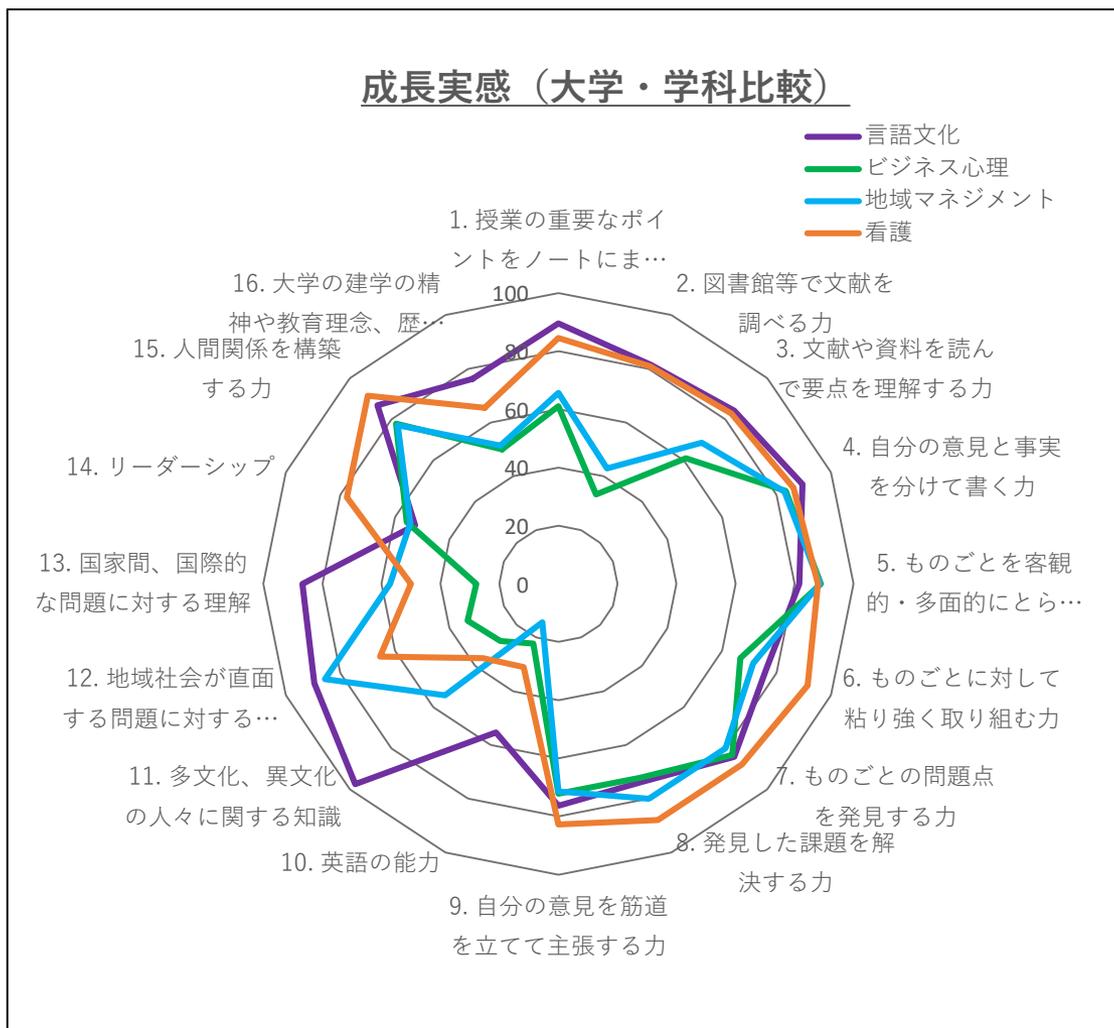
- **実践的・対人能力の高さ:** 「ものごとに対して粘り強く取り組む力」(91.4)や「人間関係を構築する力」(91.4)が大学内で最も高く、専門職に必要な資質が強く育っています。
- **研究・解決能力の飛躍:** 「図書館等で文献を調べる力」が1年次の(52.5)から(81.0)へ、「発見した課題を解決する力」が(67.8)から(87.9)へと、最終年次に向けて大きく伸長しています。

項目	2022	2023	2024	2025
	1年次	2年次	3年次	4年次
1	86.4	77.6	83.3	84.5
2	52.5	46.6	79.6	81.0
3	76.3	67.2	85.2	82.8
4	84.7	75.9	90.7	86.2
5	86.4	84.5	94.4	87.9
6	86.4	84.5	96.3	91.4
7	83.1	86.2	92.6	87.9
8	67.8	79.3	85.2	87.9
9	71.2	72.4	92.6	82.8
10	40.7	22.4	44.4	31.0
11	55.9	39.7	53.7	36.2
12	78.0	70.7	79.6	65.5
13	66.1	56.9	66.7	50.0
14	49.2	46.6	83.3	77.6
15	84.7	84.5	96.3	91.4
16	72.9	56.9	70.4	65.5



### 3. 成長実感 (1-5) 大学・学科比較

項目	言語文化	ビジネス心理	地域マネジメント	看護
1	89.5	61.1	65.7	84.5
2	81.6	33.3	42.9	81.0
3	84.2	61.1	68.6	82.8
4	89.5	83.3	82.9	86.2
5	81.6	88.9	88.6	87.9
6	76.3	66.7	71.4	91.4
7	84.2	83.3	80.0	87.9
8	73.7	72.2	80.0	87.9
9	76.3	72.2	71.4	82.8
10	55.3	22.2	14.3	31.0
11	97.4	27.8	54.3	36.2
12	89.5	33.3	85.7	65.5
13	86.8	27.8	57.1	50.0
14	52.6	55.6	54.3	77.6
15	86.8	77.8	77.1	91.4
16	76.3	50.0	51.4	65.5

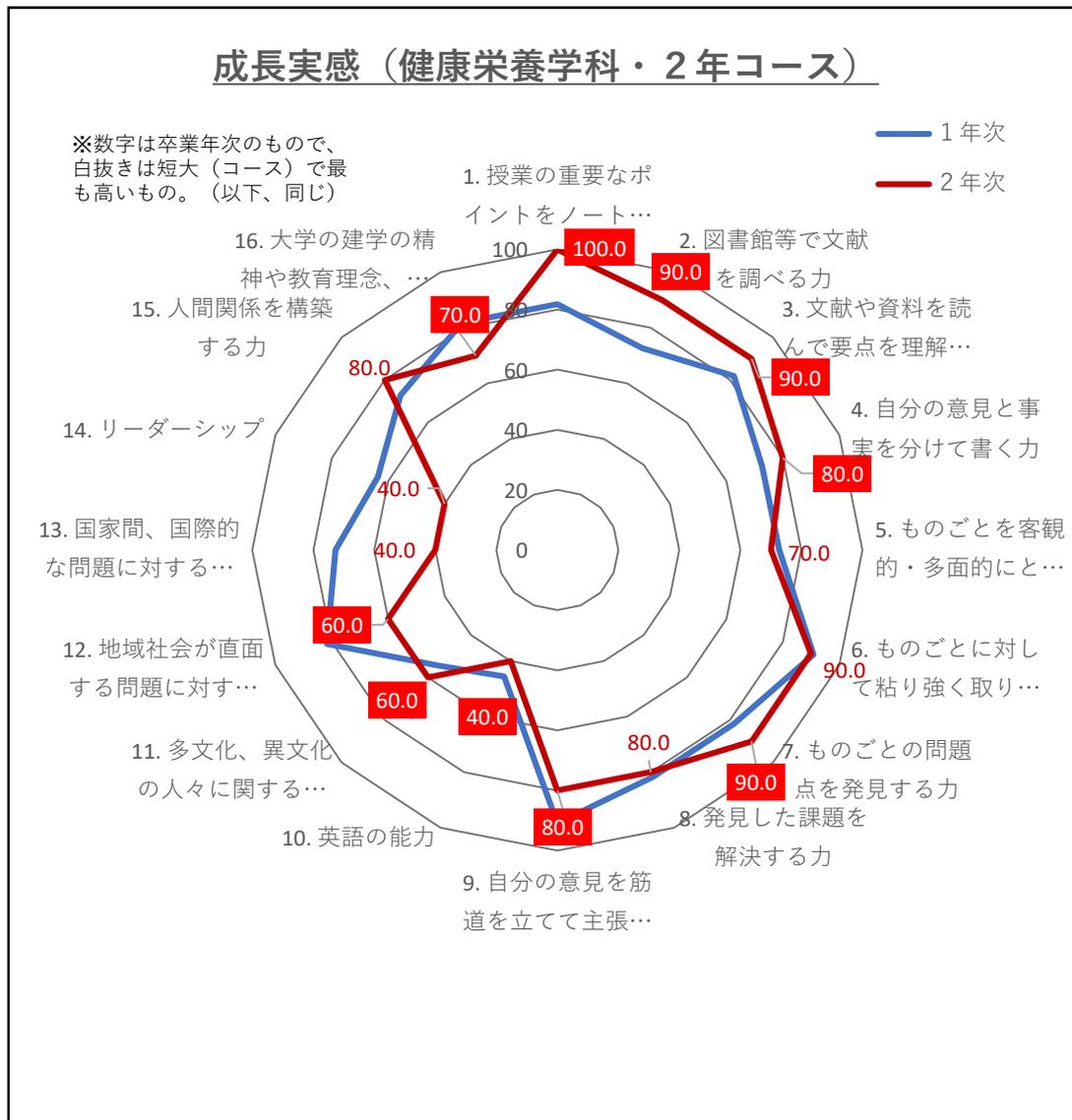


※背景色が青のものは大学で最も高いもの。

### 3. 成長実感 (2-1) 短大・健康栄養学科 (2年コース)

- **即戦力スキルの早期確立:** 1年次から「授業の重要なポイントをノートにまとめる力」が(81.8)と高く、2年次には(100.0)に到達しています。
- **文献調査スキルの早期習熟:** 「図書館等で文献を調べる力」、「文献や資料を読んで要点を理解する力」、「ものごとの問題点を発見する力」がそれぞれ2年次で(90.0)に達しており、短期間で専門的な学修に必要な基礎を完成させているのが特徴です。

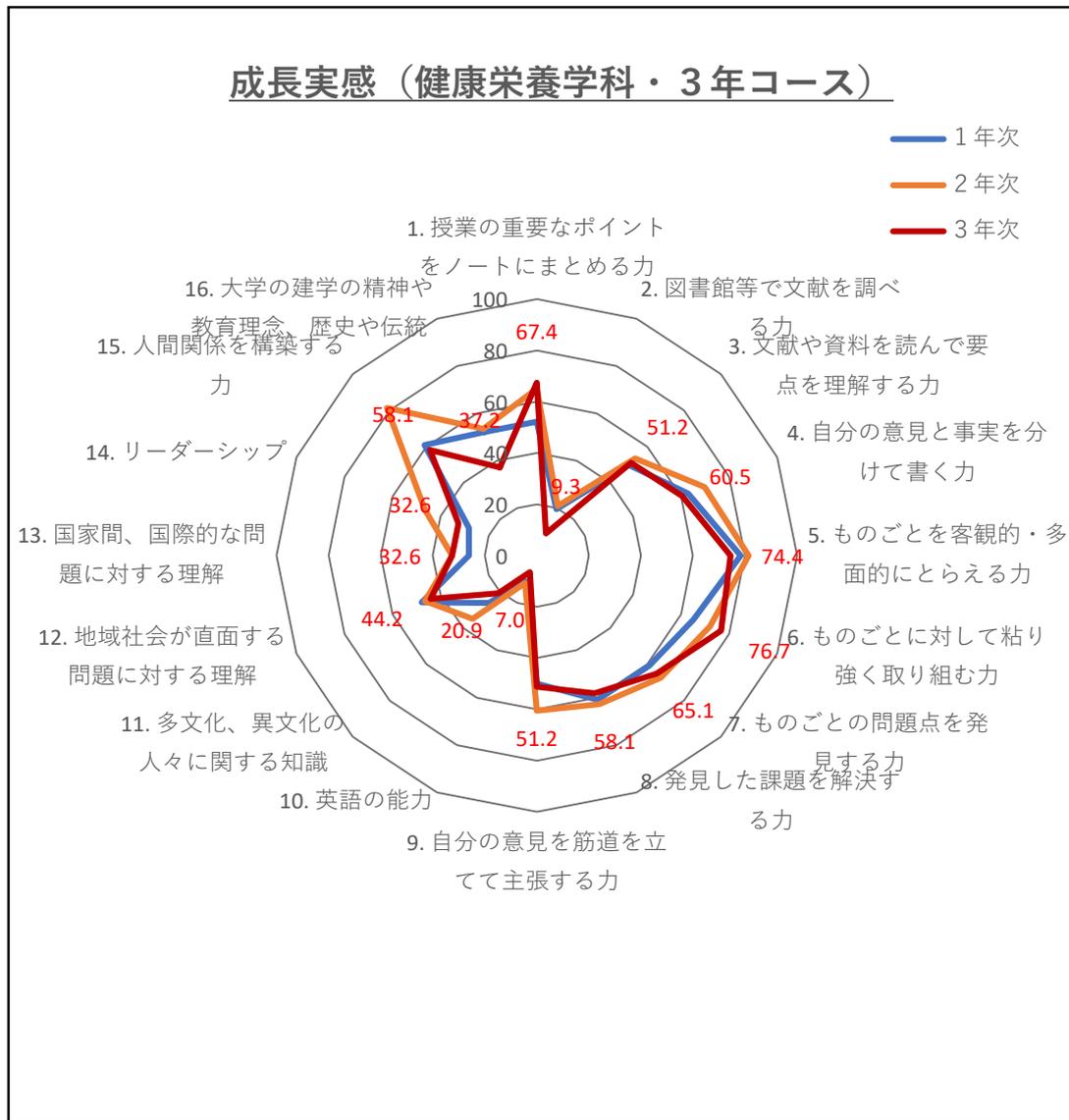
項目	2024	2025
	1年次	2年次
1	81.8	100.0
2	72.7	90.0
3	81.8	90.0
4	72.7	80.0
5	72.7	70.0
6	90.9	90.0
7	81.8	90.0
8	81.8	80.0
9	90.9	80.0
10	45.5	40.0
11	54.5	60.0
12	81.8	60.0
13	72.7	40.0
14	63.6	40.0
15	72.7	80.0
16	81.8	70.0



### 3. 成長実感 (2-2) 短大・健康栄養学科 (3年コース)

- **3年コースの継続的成長:** 「粘り強く取り組む力」が(65.2)から(76.7)へ上昇するなど、長期履修を活かして着実に自己研鑽を積んでいます。
- **特定分野の衰退:** 「文献を調べる力」(9.3)や「英語能力」(7.0)は極めて低い水準まで低下しています。

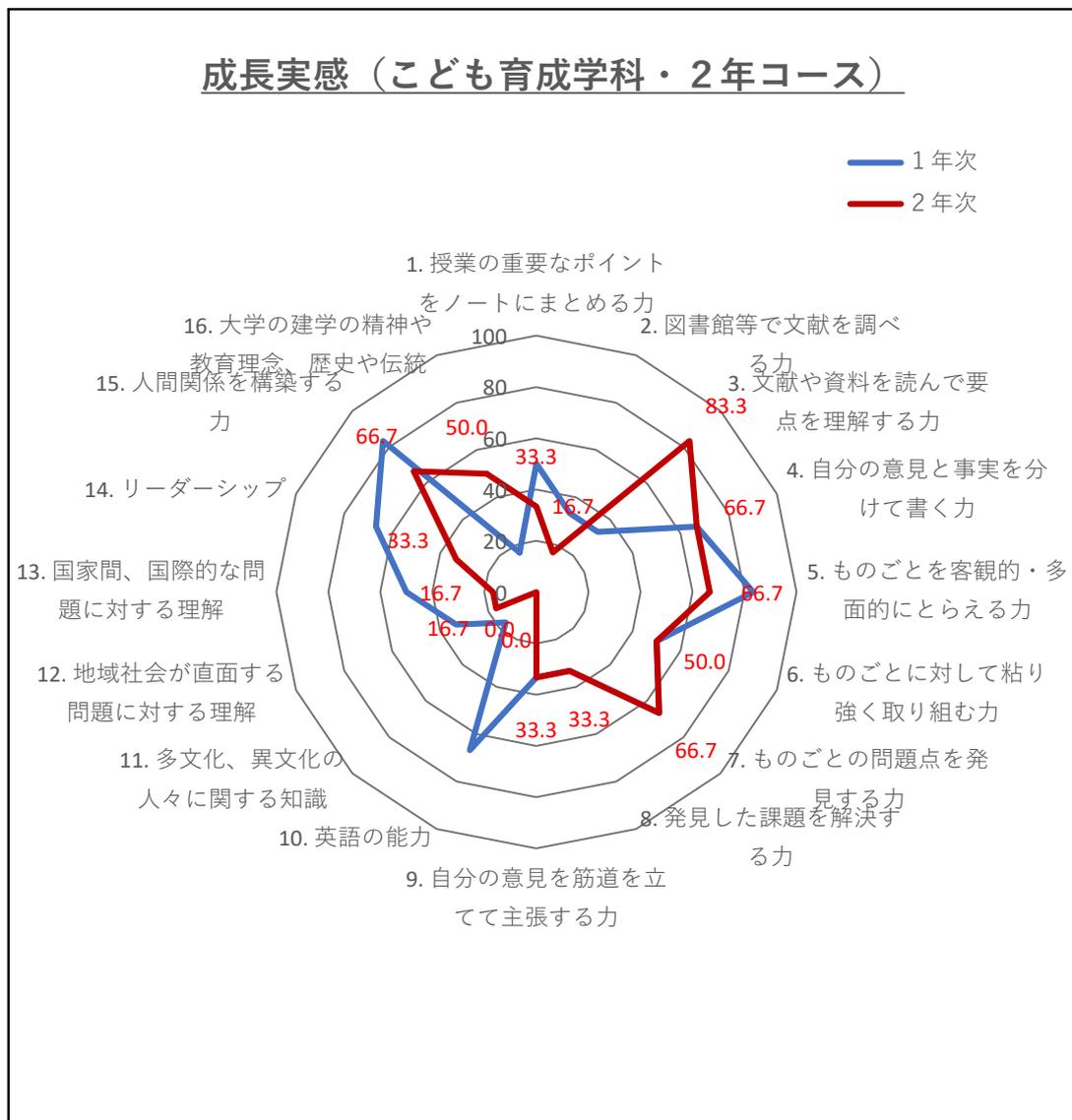
項目	2023	2024	2025
	1年次	2年次	3年次
1	52.2	65.1	67.4
2	19.6	20.9	9.3
3	50.0	53.5	51.2
4	63.0	69.8	60.5
5	78.3	81.4	74.4
6	65.2	72.1	76.7
7	60.9	67.4	65.1
8	60.9	62.8	58.1
9	50.0	60.5	51.2
10	10.9	11.6	7.0
11	26.1	34.9	20.9
12	47.8	46.5	44.2
13	26.1	32.6	32.6
14	28.3	46.5	32.6
15	60.9	81.4	58.1
16	52.2	53.5	37.2



### 3. 成長実感 (2-3) 短大・こども育成学科 (2年コース)

- **2年コースの実践理解の急伸:** 「文献や資料を読んで要点を理解する力」が1年次の(33.3) から2年次には(83.3)へと急上昇し、短期間で専門的な理解力を身につけています。
- **実践力の停滞:** 1年次との比較において、「ノートにまとめる力」、「課題を解決する力」、「意見を主張する力」の各項目 (いずれも33.3) が低下、もしくは停滞傾向にあります。

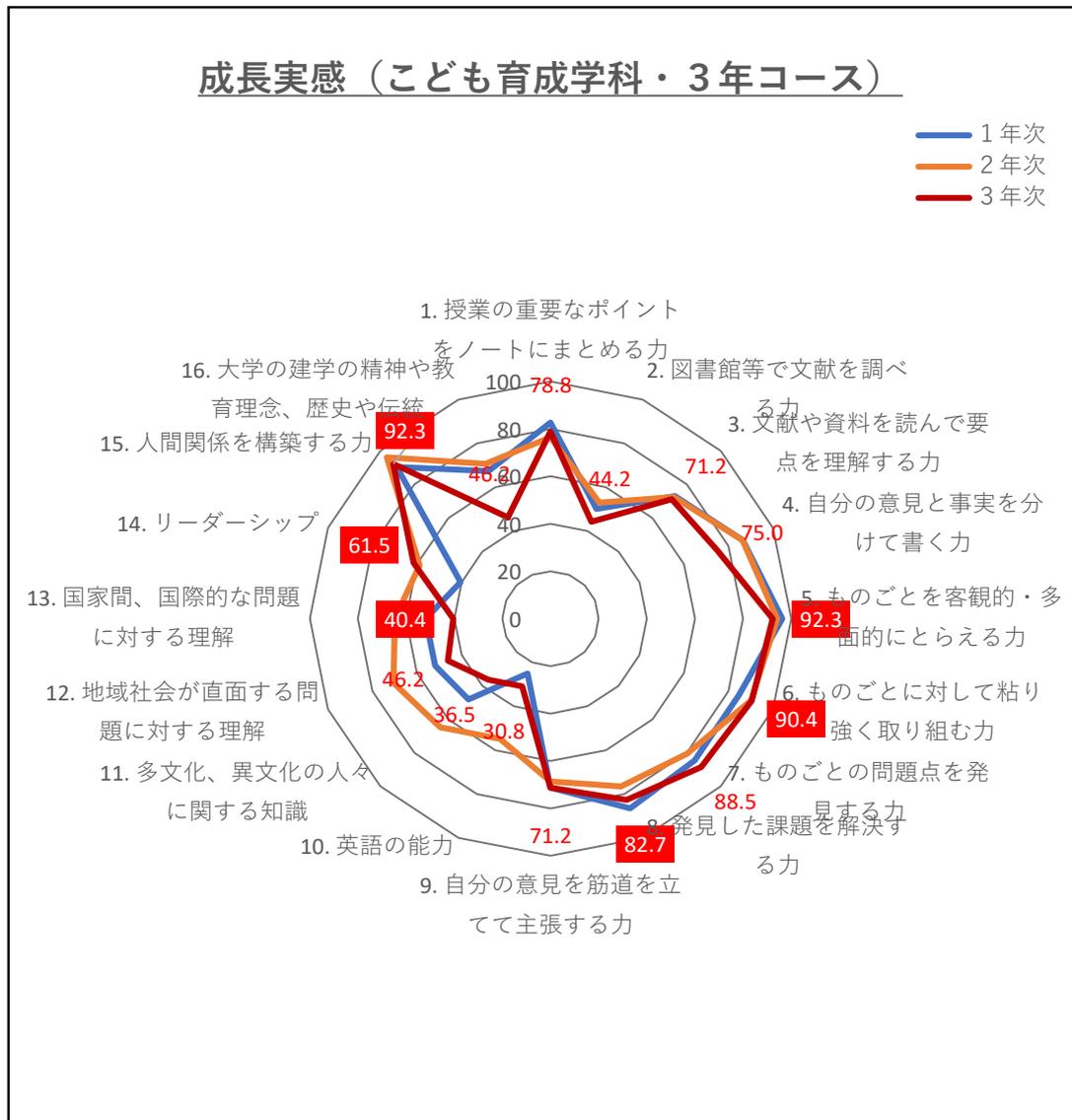
項目	2024	2025
	1年次	2年次
1	50.0	33.3
2	33.3	16.7
3	33.3	83.3
4	66.7	66.7
5	83.3	66.7
6	50.0	50.0
7	66.7	66.7
8	33.3	33.3
9	33.3	33.3
10	66.7	0.0
11	16.7	0.0
12	33.3	16.7
13	50.0	16.7
14	66.7	33.3
15	83.3	66.7
16	16.7	50.0



### 3. 成長実感 (2-4) 短大・こども育成学科 (3年コース)

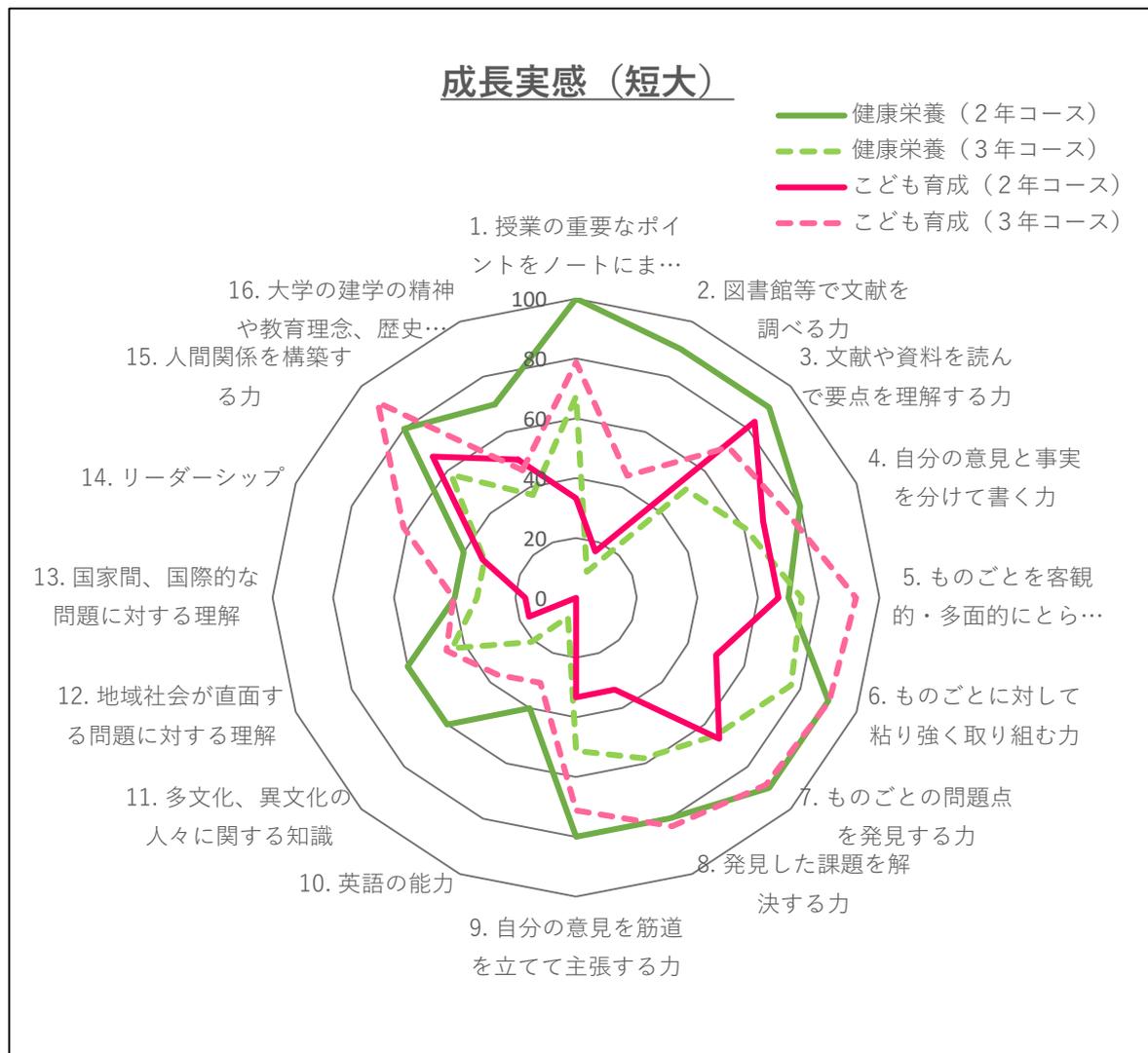
- **総合的な人間力の完成:** 「客観的視点」(92.3)、「粘り強さ」(90.4)、「人間関係構築」(92.3)など、主要な項目の多くで3年間の最高値を記録し、短大内で最も高い成長実感を得ています。
- **対人能力・集団牽引力の伸長:** 「リーダーシップ」が(40.4)から(61.5)へ大幅に向上。3年コースが、対人能力や集団牽引力を2年コースより高い水準まで引き上げています。

項目	2023	2024	2025
	1年次	2年次	3年次
1	82.7	76.5	78.8
2	50.0	52.9	44.2
3	73.1	72.5	71.2
4	86.5	86.3	75.0
5	96.2	94.1	92.3
6	84.6	90.2	90.4
7	84.6	80.4	88.5
8	86.5	76.5	82.7
9	71.2	68.6	71.2
10	25.0	54.9	30.8
11	48.1	64.7	36.5
12	51.9	70.6	46.2
13	51.9	64.7	40.4
14	40.4	58.8	61.5
15	90.4	96.1	92.3
16	67.3	70.6	46.2



### 3. 成長実感 (2-5) 短大・学科比較

項目	健康栄養 2年コース	健康栄養 3年コース	こども育成 2年コース	こども育成 3年コース
1	100.0	67.4	33.3	78.8
2	90.0	9.3	16.7	44.2
3	90.0	51.2	83.3	71.2
4	80.0	60.5	66.7	75.0
5	70.0	74.4	66.7	92.3
6	90.0	76.7	50.0	90.4
7	90.0	65.1	66.7	88.5
8	80.0	58.1	33.3	82.7
9	80.0	51.2	33.3	71.2
10	40.0	7.0	0.0	30.8
11	60.0	20.9	0.0	36.5
12	60.0	44.2	16.7	46.2
13	40.0	32.6	16.7	40.4
14	40.0	32.6	33.3	61.5
15	80.0	58.1	66.7	92.3
16	70.0	37.2	50.0	46.2



※背景色が青のものは短大で最も高いもの。

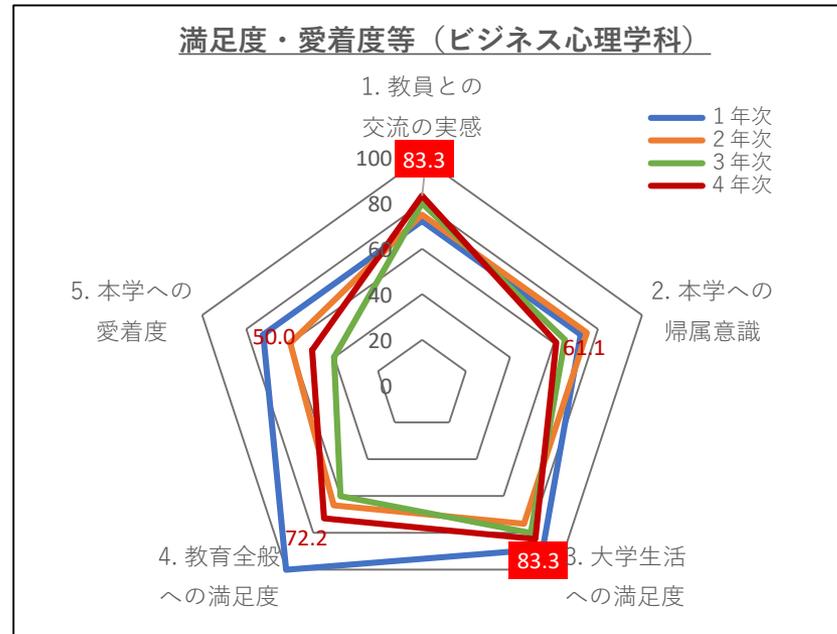
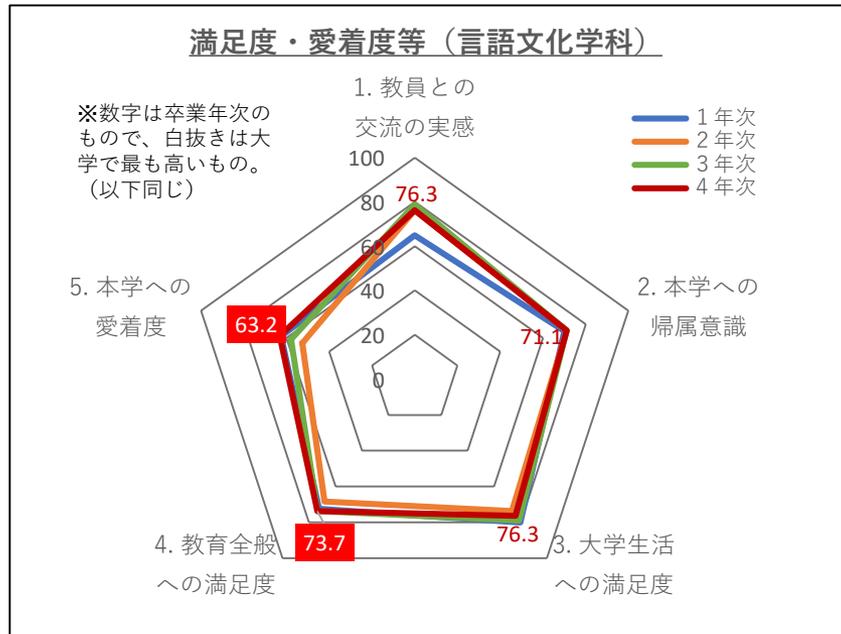
## 4. 満足度 (1-1) 大学・言語文化学科／ビジネス心理学科

- **安定した帰属意識と高い愛着度:** 「帰属意識」(71.1)が2年次から4年次まで変わらず安定しており、最終年次の「愛着度」(63.2)は大学内で最も高い数値となっています。
- **教員交流の定着:** 1年次(65.0)から上昇し、最終年次でも(76.3)と高い水準を維持しています。

- **教員交流と生活満足度の高さ:** 最終年次の「教員との交流の実感」(83.3)と「大学生活への満足度」(83.3)は大学内でトップの数値であり、年次を追うごとに上昇しています。
- **帰属意識・愛着度の低下傾向:** 大学生活への満足度が高い一方で、帰属意識(61.1)や愛着度(50.0)は1年次より低下して卒業を迎える傾向にあります。

項目	2022	2023	2024	2025
	1年次	2年次	3年次	4年次
1	65.0	76.3	78.9	76.3
2	70.0	71.1	71.1	71.1
3	80.0	73.7	78.9	76.3
4	72.5	68.4	73.7	73.7
5	62.5	52.6	57.9	63.2

項目	2022	2023	2024	2025
	1年次	2年次	3年次	4年次
1	72.2	75.0	80.0	83.3
2	72.2	75.0	65.0	61.1
3	88.9	75.0	80.0	83.3
4	100.0	65.0	60.0	72.2
5	72.2	60.0	40.0	50.0



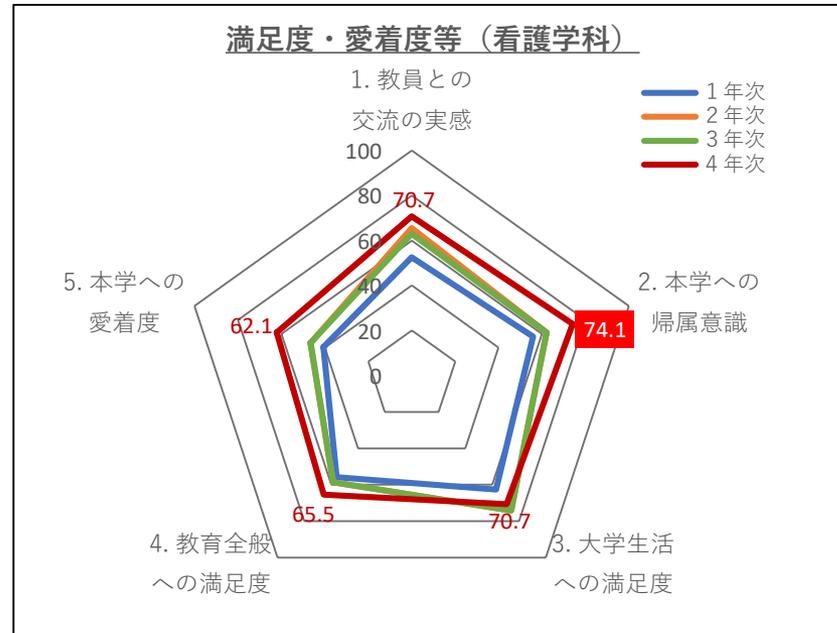
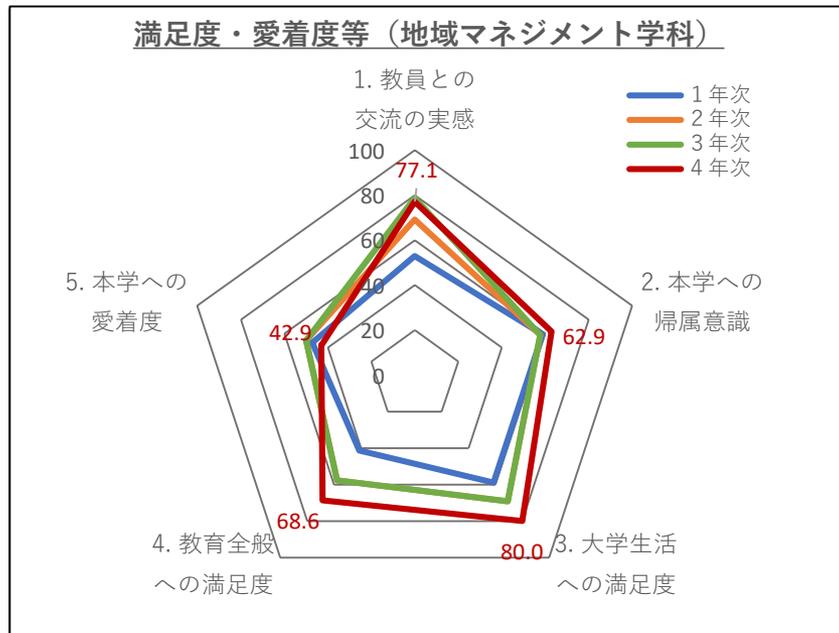
## 4. 満足度 (1-2) 大学・地域マネジメント学科／看護学科

- ▶ **全項目で過去最高を記録:** 1年次と比較して、4年次には「大学生活への満足度」(80.0)や「教育全般への満足度」(68.6)など、3つの項目で大幅な改善が見られます。
- ▶ **愛着度の課題:** 大学生活への満足度(80.0)は高いものの、愛着度(42.9)は大学内で最も低く、1年次(47.1)からも微減しています。

- ▶ **帰属意識と愛着の急上昇:** 4年次に「本学への帰属意識」(74.1)と「本学への愛着度」(62.1)が大きく跳ね上がり、帰属意識については大学内で最も高い数値となっています。
- ▶ **満足度の着実な向上:** 1年次に40~50台であった満足度(4項目)が、4年次にかけて60台~70台の最高値に到達するなど、着実な向上が見られます。

項目	2022	2023	2024	2025
	1年次	2年次	3年次	4年次
1	52.9	69.2	78.8	77.1
2	58.8	57.7	57.7	62.9
3	58.8	69.2	69.2	80.0
4	41.2	57.7	57.7	68.6
5	47.1	50.0	50.0	42.9

項目	2022	2023	2024	2025
	1年次	2年次	3年次	4年次
1	52.5	65.5	63.0	70.7
2	55.9	62.1	62.1	74.1
3	62.7	74.1	74.1	70.7
4	55.9	58.6	58.6	65.5
5	40.7	46.6	46.6	62.1



## 4. 満足度 (2-1) 短大・健康栄養学科 (2年コース/3年コース)

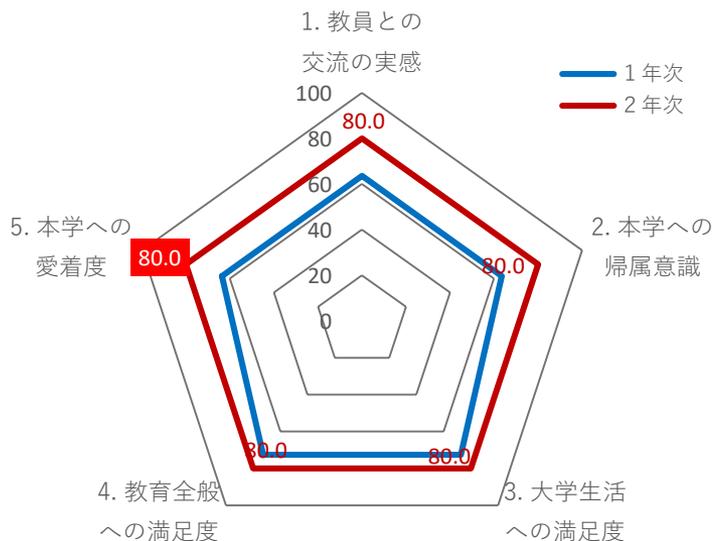
- **2年コースの高い愛着:** 最終年次(2年次)に全項目が(80.0)で並び、特に「本学への愛着度」は短大の全コースの中で最も高い数値を示しています。
- **安定した生活満足度:** 「大学生活への満足度」、「教育全般への満足度」は1年次から高い水準を維持しています。

- **3年コースの段階的適応:** 1年次は30~50台と低めですが、3年次には「大学生活への満足度」(69.8)や「教育全般への満足度」(65.1)が大幅に改善し、時間をかけて満足度を高めています。
- **愛着度の低下:** 「本学への愛着度」(48.8)も短大内で唯一(50)を割り込んでいます。

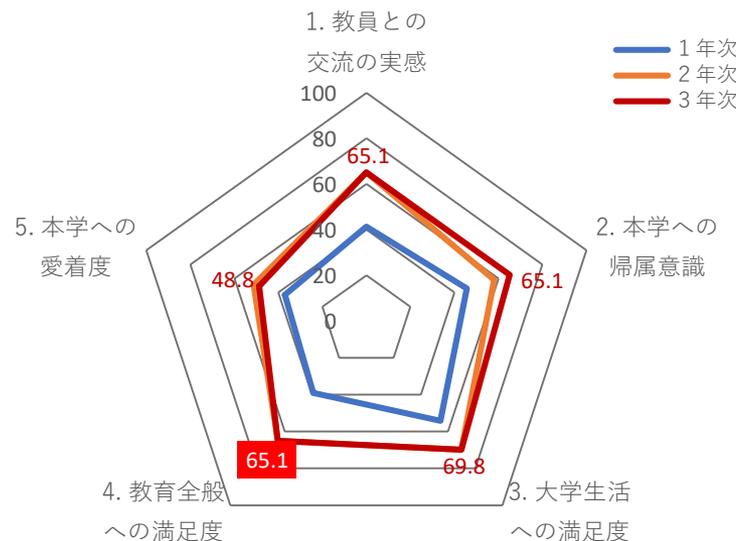
項目	2024	2025
	1年次	2年次
1	63.6	80.0
2	63.6	80.0
3	72.7	80.0
4	72.7	80.0
5	63.6	80.0

項目	2023	2024	2025
	1年次	2年次	3年次
1	41.3	65.1	65.1
2	45.7	58.1	65.1
3	54.3	69.8	69.8
4	39.1	65.1	65.1
5	37.0	51.2	48.8

満足度・愛着度等 (健康栄養学科・2年コース)



満足度 (健康栄養学科・3年コース)



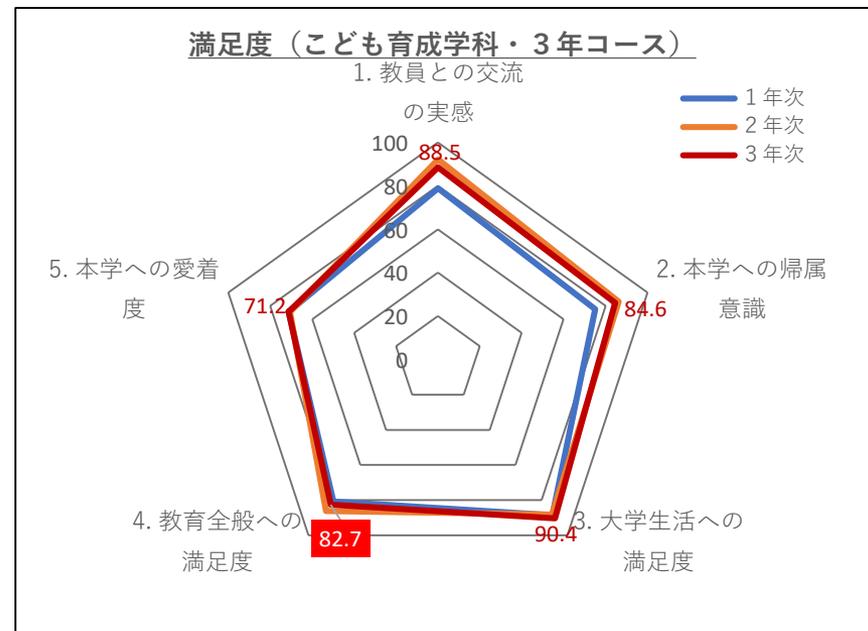
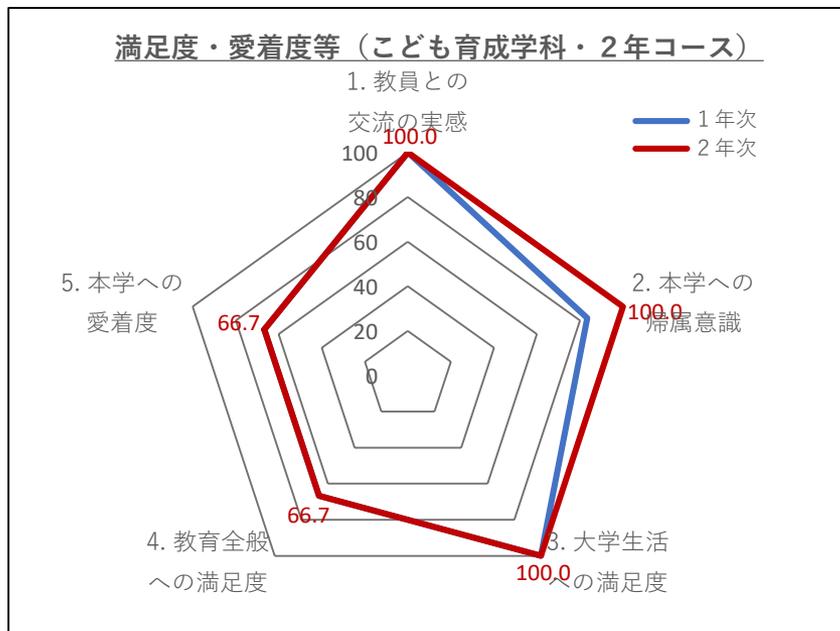
## 4. 満足度 (2-2) 短大・こども育成学科 (2年コース/3年コース)

➤ **2年コースの圧倒的な充足感:** 最終年次に「教員との交流」「帰属意識」「大学生活への満足度」の3項目で(100.0) という驚異的な数値を記録しており、短大内で突出した満足度を誇ります。

➤ **3年コースの教育満足度:** 3年次に「教育全般への満足度」が(82.7)に達し、短大の他コースと比較して、長期履修による教育内容への評価が最も高いのが特徴です。

項目	2024	2025
	1年次	2年次
1	100.0	100.0
2	83.3	100.0
3	100.0	100.0
4	66.7	66.7
5	66.7	66.7

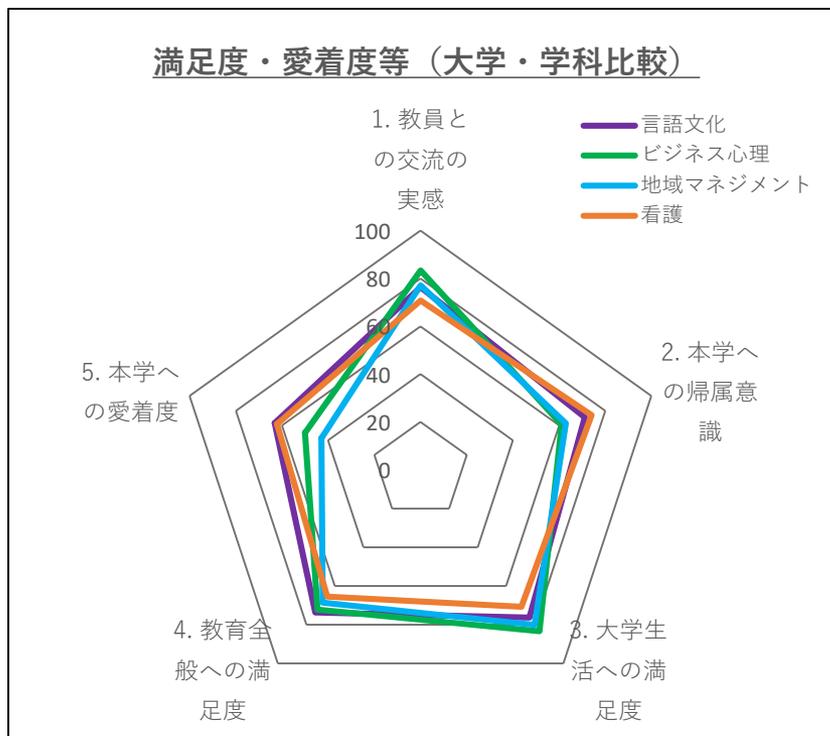
項目	2023	2024	2025
	1年次	2年次	3年次
1	78.8	92.2	88.5
2	75.0	86.3	84.6
3	88.5	88.2	90.4
4	80.8	86.3	82.7
5	71.2	70.6	71.2



## 4. 満足度 (2-3) 大学・短大 学科比較

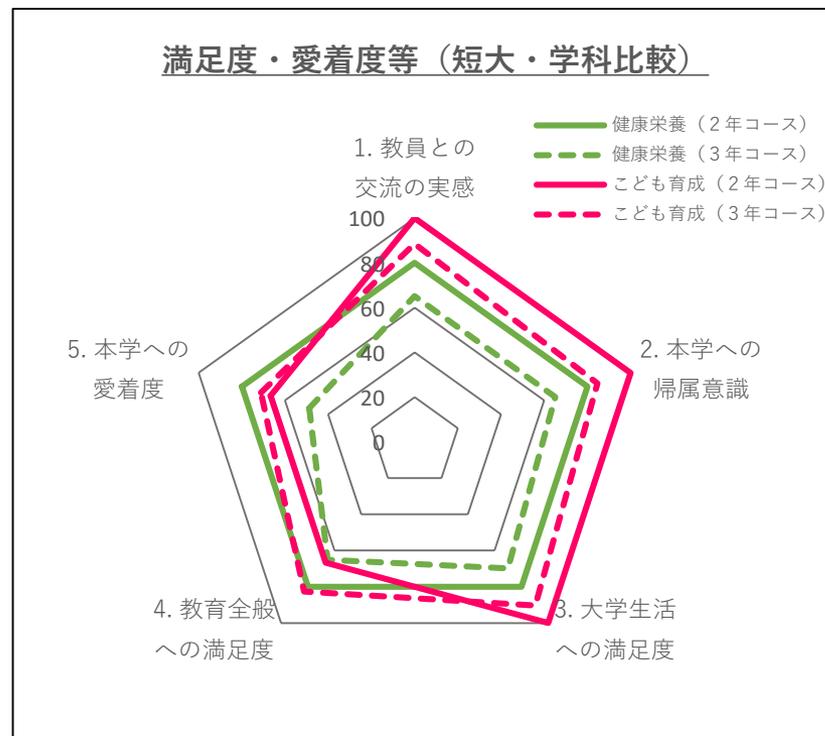
項目	言語文化	ビジネス心理	地域マネジメント	看護
1	76.3	83.3	77.1	70.7
2	71.1	61.1	62.9	74.1
3	76.3	83.3	80.0	70.7
4	73.7	72.2	68.6	65.5
5	63.2	50.0	42.9	62.1

※背景色が青のものは大学で最も高いもの。



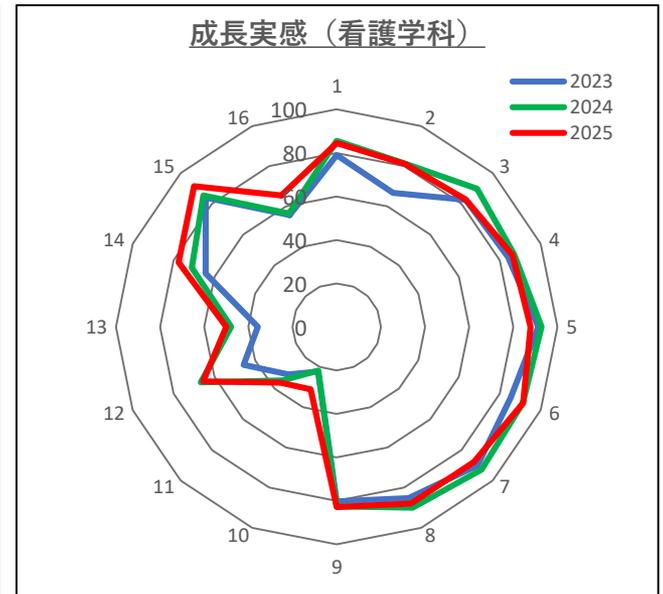
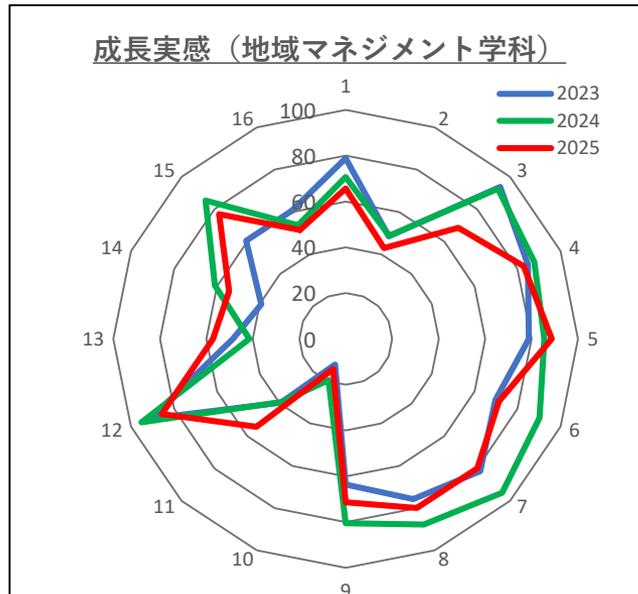
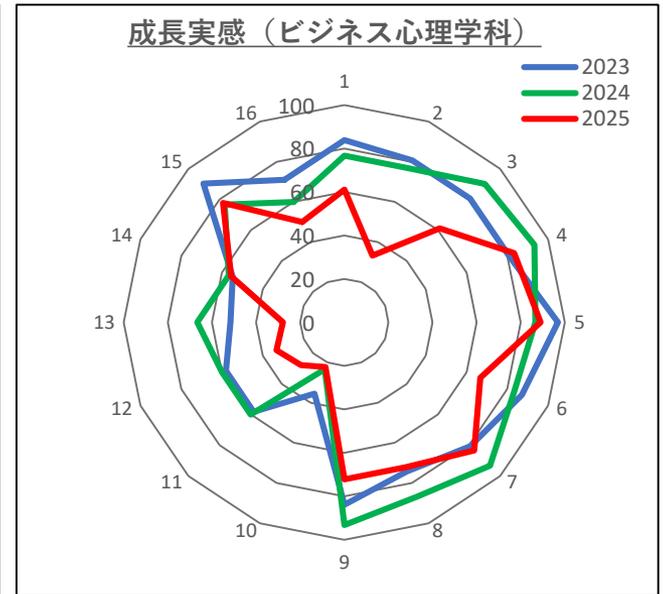
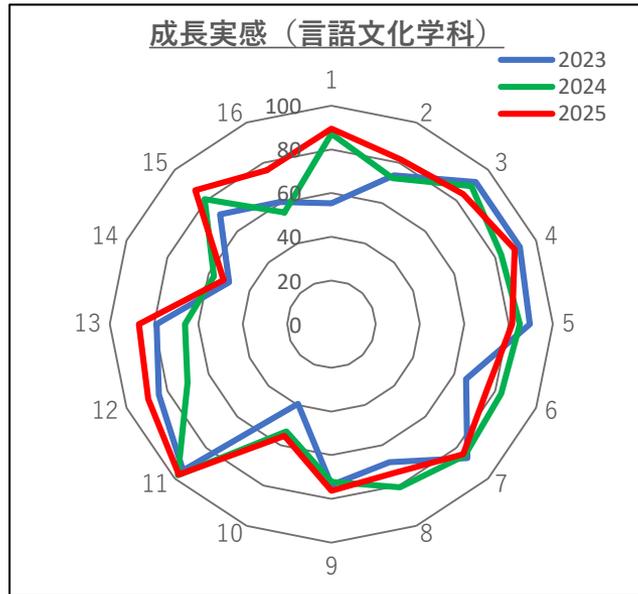
項目	健康栄養 2年コース	健康栄養 3年コース	こども育成 2年コース	こども育成 3年コース
1	80.0	65.1	100.0	88.5
2	80.0	65.1	100.0	84.6
3	80.0	69.8	100.0	90.4
4	80.0	65.1	66.7	82.7
5	80.0	48.8	66.7	71.2

※背景色が青のものは短大で最も高いもの。



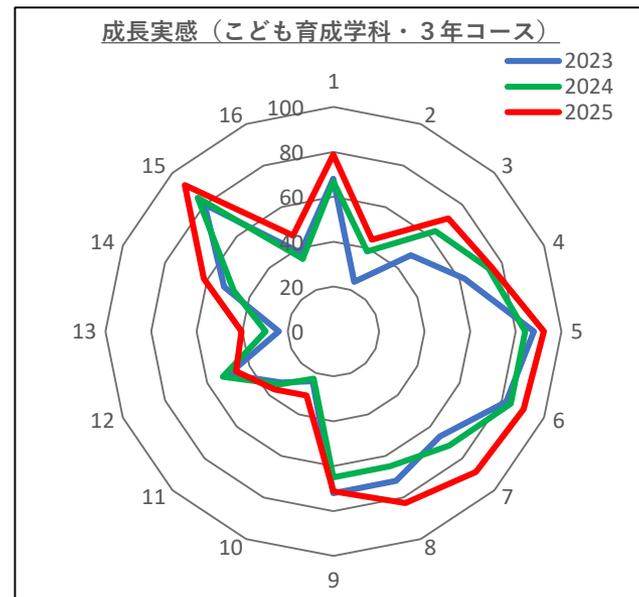
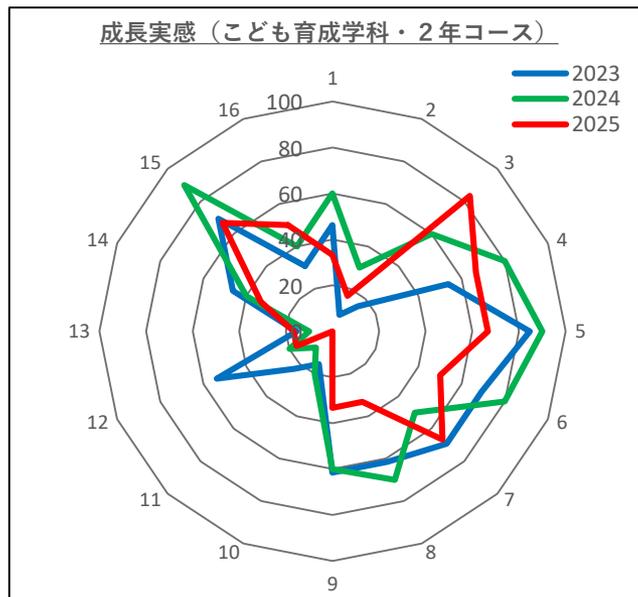
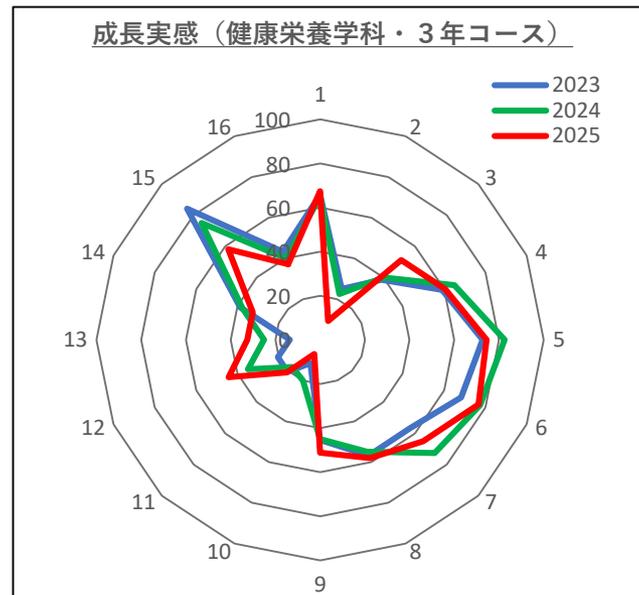
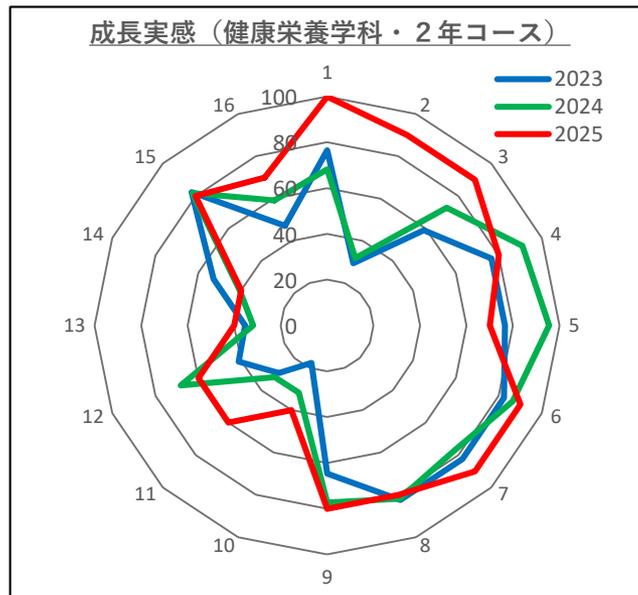
# 5. 2023、2024年度卒業生との比較①（大学・成長実感）

1. 授業の重要なポイントをノートにまとめる力
2. 図書館等で文献を調べる力
3. 文献や資料を読んで要点を理解する力
4. 自分の意見と事実を分けて書く力
5. ものごとを客観的・多面的にとらえる力
6. ものごとに対して粘り強く取り組む力
7. ものごとの問題点を発見する力
8. 発見した課題を解決する力
9. 自分の意見を筋道を立てて主張する力
10. 英語の能力
11. 多文化、異文化の人々に関する知識
12. 地域社会が直面する問題に対する理解
13. 国家間、国際的な問題に対する理解
14. リーダーシップ
15. 人間関係を構築する力
16. 大学の建学の精神や教育理念、歴史や伝統



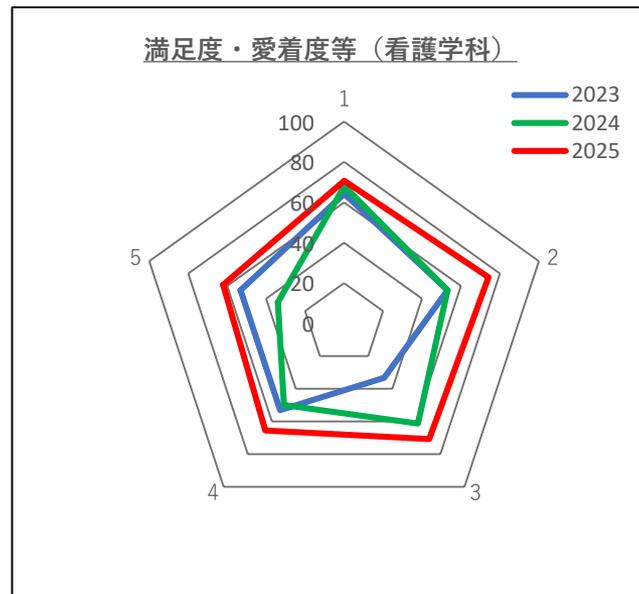
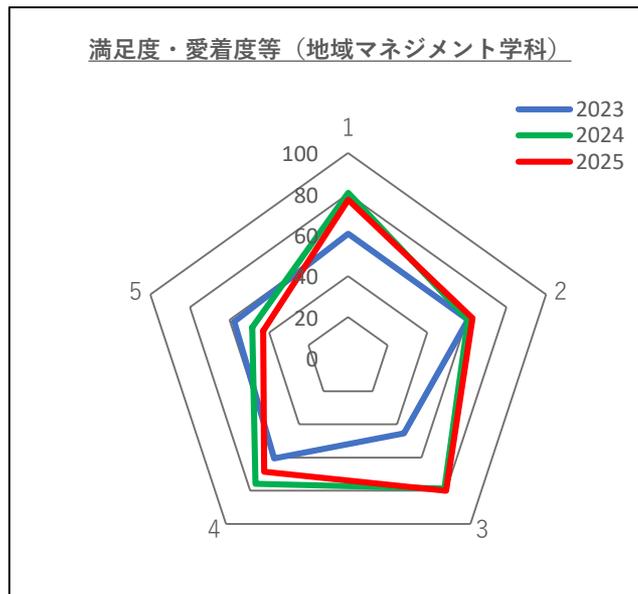
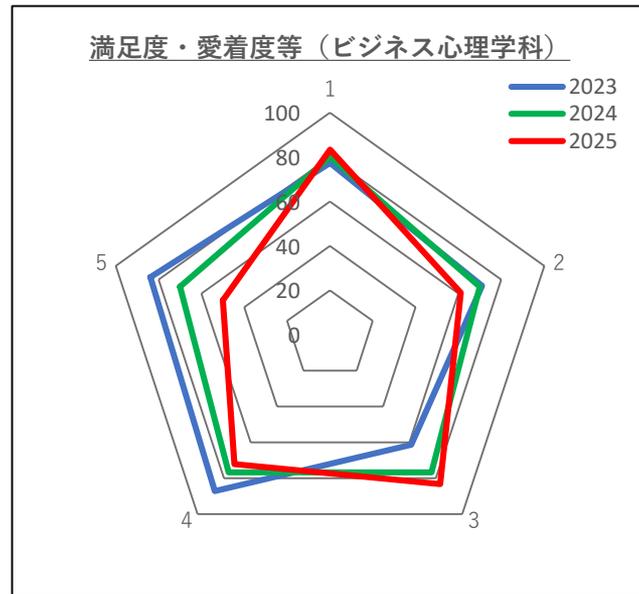
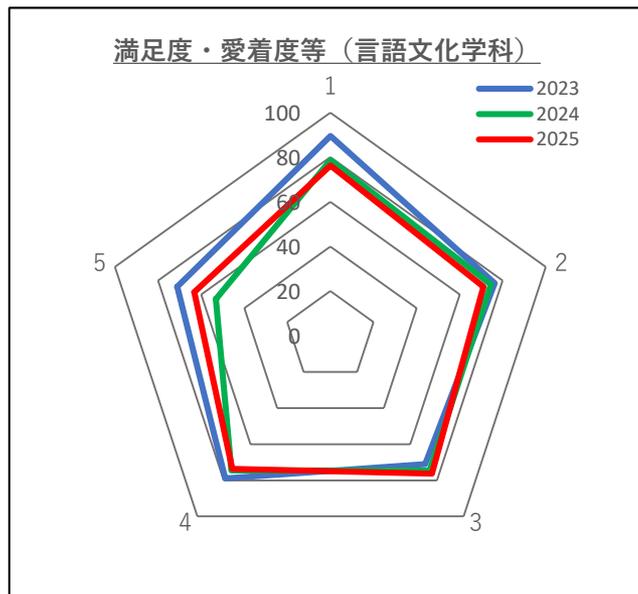
## 5. 2023、2024年度卒業生との比較②（短大・成長実感）

1. 授業の重要なポイントをノートにまとめる力
2. 図書館等で文献を調べる力
3. 文献や資料を読んで要点を理解する力
4. 自分の意見と事実を分けて書く力
5. ものごとを客観的・多面的にとらえる力
6. ものごとに対して粘り強く取り組む力
7. ものごとの問題点を発見する力
8. 発見した課題を解決する力
9. 自分の意見を筋道を立てて主張する力
10. 英語の能力
11. 多文化、異文化の人々に関する知識
12. 地域社会が直面する問題に対する理解
13. 国家間、国際的な問題に対する理解
14. リーダーシップ
15. 人間関係を構築する力
16. 大学の建学の精神や教育理念、歴史や伝統



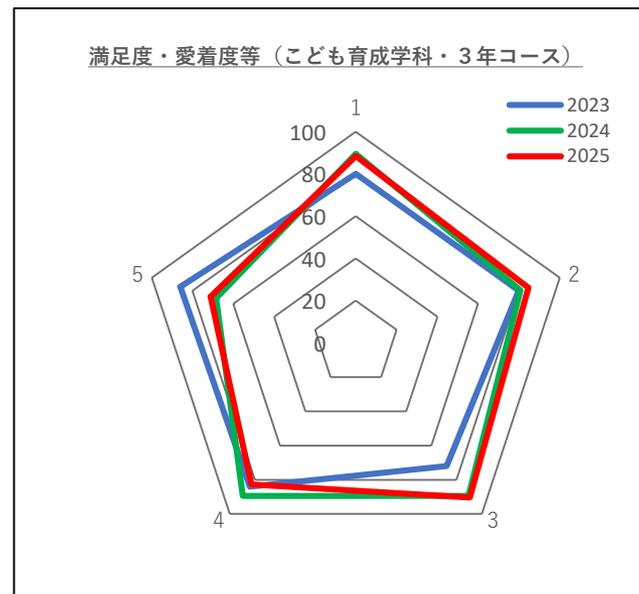
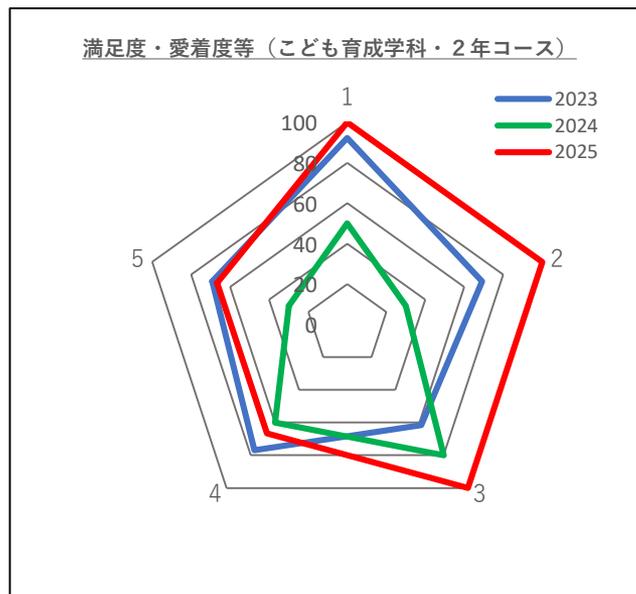
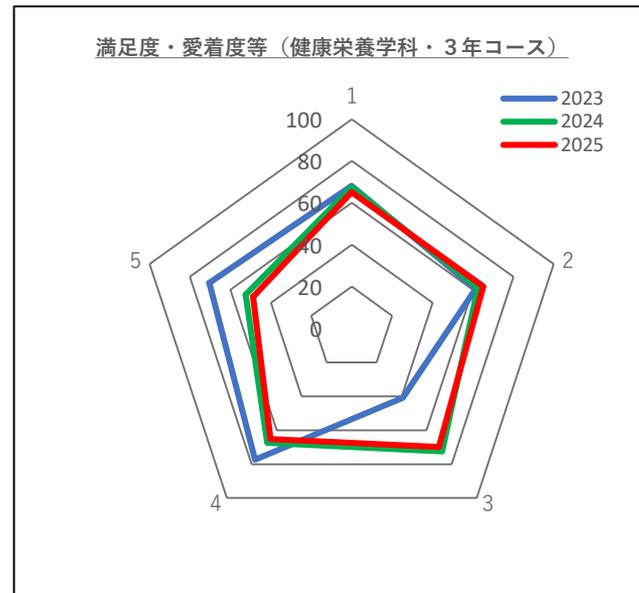
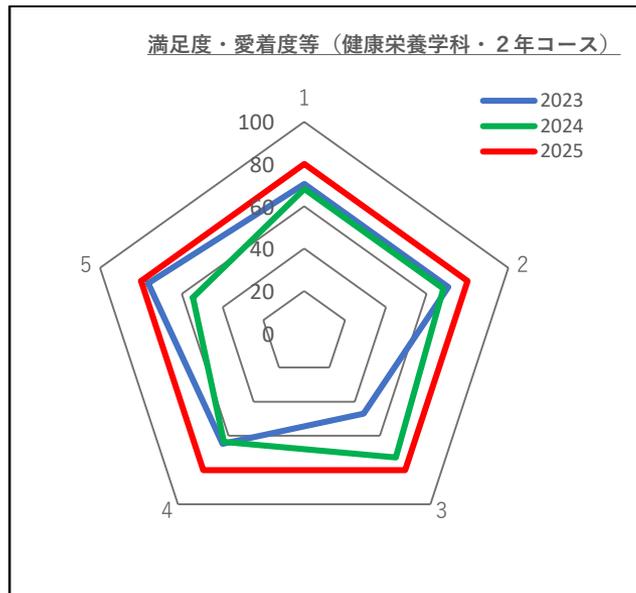
## 5. 2023、2024年度卒業生との比較③（大学・満足度）

1. 教員との交流の実感
2. 本学への帰属意識
3. 大学生活への満足度
4. 教育全般への満足度
5. 本学への愛着度



# 5. 2023、2024年度卒業生との比較④（短大・満足度）

- |              |
|--------------|
| 1. 教員との交流の実感 |
| 2. 本学への帰属意識  |
| 3. 大学生活への満足度 |
| 4. 教育全般への満足度 |
| 5. 本学への愛着度   |



## 5. 2023、2024年度卒業生との比較⑤（成長実感まとめ）

---

### 1. 成長実感の考察

#### 【言語文化学科】

2025年度は「地域社会の課題理解（89.5）」や「国際的な問題への理解（86.8）」が大きく伸びており、グローバルかつローカルな視点の習得が進んでいます。

#### 【ビジネス心理学科】

「ものごとを客観的・多面的にとらえる力（88.9）」が継続して高く、専門領域での思考力が定着しています。

#### 【地域マネジメント学科】

「ものごとを客観的・多面的にとらえる力（88.6）」が上昇傾向にある一方、「文献を調べる力（42.9）」などの基礎研究スキルに課題が見られます。

#### 【看護学科】

多くの項目で80～90台の高い数値を維持しており、特に「人間関係を構築する力（91.4）」や「粘り強く取り組む力（91.4）」において、専門職としての強い自覚が伺えます。

#### 【健康栄養学科】

2年コース・3年コース共に「授業のポイントをまとめる力」が非常に高く（100や78.8）、基礎学習の充実が伺えます。

#### 【こども育成学科】

3年コースにおいて「人間関係を構築する力（92.3）」や「多面的にとらえる力（92.3）」が極めて高く、対人援助職としての成長を強く実感している傾向にあります。

## 5. 2023、2024年度卒業生との比較⑥（満足度まとめ）

---

### 2. 満足度の考察

#### 【言語文化学科】

大学生生活への満足度は(76.3)と上昇傾向にありますが、愛着度は(63.2)に留まっており、居心地の良さと組織への帰属意識に乖離が見られます。

#### 【ビジネス心理学科】

2025年度は大学生生活への満足度が(83.3)と非常に高く、充実した学生生活を送っている様子が分かります。

#### 【地域マネジメント学科】

2023年度(45.5)から2025年度(80.0)にかけて大学生生活への満足度が急増しており、教育環境の改善や学生主体の活動が定着した可能性が示唆されます。

#### 【看護学科】

教育全般への満足度(65.5)に対し、本学への帰属意識(74.1)が比較的高く、組織の一員としての意識が強いのが特徴です。

#### 【健康栄養学科】

3年コースの満足度は(40.9)と他学科に比べ低い一方、2年コースは(80.0)と高く、修業年限によって満足度の源泉が異なることが推察されます。

#### 【こども育成学科】

2年コースは「本学への帰属意識」が100に達する年度があるなど、非常に密接な関係性が築かれています。3年コースも全体的に80～90台を維持しており、総じて高い満足度を誇っています。

## 6. レポートの活用（学科別の「強み」と「課題」の総括①）

➤ 成長実感と満足度の回答を分析した結果から、次の「強み」・「課題」をまとめた。

### 【言語文化学科】

- **強み:** 社会・国際理解の実感が非常に高く、「多文化・異文化の人々に関する知識」(97.4)や「地域社会の問題理解」(89.5)が4年間で最高値に達している。また、「教育全般への満足度」(73.7)、「本学への愛着度」(63.2)は大学内でトップである。
- **課題:** 他の項目に比べ「リーダーシップ」(52.6)の実感値が相対的に低く、実践的な先導力が弱い。

### 【ビジネス心理学科】

- **強み:** 「ものごとを客観的・多面的にとらえる力」(88.9)が高水準である。また、「教員との交流」(83.3)や「大学生活への満足度」(83.3)が大学内で最高値であり、学生の充足感が高い。
- **課題:** 「英語能力」(22.2)や「国際的問題への理解」(27.8)が非常に低く、グローバルな視点の育成が課題。また、「図書館等で文献を調べる力」(33.3)が低調。

### 【地域マネジメント学科】

- **強み:** 「地域社会が直面する問題に対する理解」(85.7)は学内でも上位を維持しており、学科の専門性が反映されている。
- **課題:** 「本学への愛着度」(42.9)は大学内で最も低く、組織へのロイヤリティ形成が課題。また、「英語能力」(14.3)が極めて低い。

### 【看護学科】

- **強み:** 「粘り強く取り組む力」(91.4)や「人間関係を構築する力」(91.4)が極めて高く、実践的な対人力と忍耐力が強みです。4項目の満足度が4年間で最高値に到達。
- **課題:** 「大学生活への満足度」(70.7)は上昇傾向にあるものの、数値自体は大学内で最も低く、さらなる充実が期待される。

## 6. レポートの活用（学科別の「強み」と「課題」の総括②）

### 【健康栄養学科（2年コース）】

- **強み:**「ノートにまとめる力」(100.0)が非常に高く、短期間で高い学習習慣を身につけている。また、「本学への愛着度」(80.0)が短大の中で最も高い。
- **課題:**2年次に「リーダーシップ」や「国際的理解」の数値が(40.0)まで減少している。

### 【健康栄養学科（3年コース）】

- **強み:**「粘り強く取り組む力」(76.7)が年々向上しており、長期履修のメリットが出ている。
- **課題:**「英語能力」(7.0)や「文献調査力」(9.3)が著しく低く、本学への愛着度(48.8)も短大内で唯一(50)を割り込んでいる。

### 【こども育成学科（2年コース）】

- **強み:**「大学生活への満足度」、「教員との交流実感」、「帰属意識」がいずれも(100.0)という驚異的な数値を記録しており、環境への適応力が非常に高い。
- **課題:**「ノートにまとめる力」(33.3)や「文献を調べる力」(16.7)が1年次より半減、「課題解決力」や「論理的主張力」(33.3)は他学科(80前後)に比べて大きく遅れをとっています。また、「英語能力」と「多文化理解」2年次(0.0)、「地域・国際問題への理解」(16.7)は極めて低い状態である。

### 【こども育成学科（3年コース）】

- **強み:**「人間関係を構築する力」(92.3)や「客観的視点」(92.3)が非常に高く、「教育全般への満足度」(82.7)も短大内でトップである。
- **課題:**多くの項目で最高値を更新していますが、「建学の精神や理念の理解」(46.2)は他学科と比較してやや低水準である。

▶ 各学科では、このレポートで提供するデータと分析結果を活用し、アピールポイントやカリキュラムのブラッシュアップに取り組んでいただきたい。